



Bull. Chem. Soc. Jpn. への 投稿のすすめ

Invitation to submit your papers to the Bulletin of
the Chemical Society of Japan



入江正浩 Masahiro IRIE

立教大学 特任教授, *Bull. Chem. Soc. Jpn.* 編集長

日本化学会の欧文誌, *Bull. Chem. Soc. Jpn.* は, 1926年に創刊されています。現在も継続している化学分野の国際誌の創刊年を調べてみますと, *J. Am. Chem. Soc.* が1879年, *Helvetica Chimica Acta* が1918年, *Can. J. Chem.* が1929年, *Aust. J. Chem.* が1948年であり, *Bull. Chem. Soc. Jpn.* は世界で3番目の長い歴史をもっています。この長い歴史の間, 福井先生をはじめ, 白川先生, 野依先生, 下村先生, 鈴木先生, 根岸先生など我が国のノーベル賞受賞の先生方が論文を発表されてきており, 中でも鈴木先生は, 37報もの論文を投稿されています。2007年には, 創刊80周年を記念して20名以上の著名な先生方において記念総説シリーズを掲載しました。

この伝統を維持, 発展させるため, これまで編集幹事会では様々の試みを行ってきています。各号ごとに, BCSJ賞, Selected Papersを選考し, 特に, BCSJ賞の論文は, 毎号の「化学と工業」にその内容を紹介しています。Selected Papersについては, 冊子の裏表紙にグラフィックアブストラクトを掲載することにしました。グラフィックアブストラクトの転載許可を簡素化すること, BCSJ賞あるいはアカウント論文をオープンアクセスにすること, 編集関連の事項(特に化合物名, 字句等の統一など)は編集部で行うこと, など改善に努めてまいりました。これまで, 電子投稿, 審査, 編集には, J-STAGE独自の方式を使ってきていましたが, この10月からアメリカ化学会, 英国王立化学会がともに用います「SCHOLARONE Manuscripts」へ移行しています。より使いやすい電子投稿システムになると確信しています。

Bull. Chem. Soc. Jpn. は, フルペーパーとアカウントを掲載する国際誌として続けてきています。2010年のIF(インパクトファクター)は1.57となり我が国の学会誌としては健闘していますが, 国際誌として十分とは言えません。国際誌の中で特徴をもたせる意味で, 優れたオリジナル論文とともに, (1) 細切れでない「全容報告」的内容をもった読者に役に立つ論文, (2) 本文は短くして Supporting Information に詳細を載せる速報形式ではなく, 論文そのものに詳細を記述した後世に残るきっちりとした論文, (3) 発表済みのいくつかの速報をまとめ, その意義を記述した総合的な論文, (4) 特定の分野についてまとめた特集総説論文の掲載もめざしたいと思っています。このようなフルペーパーには, いずれも高い被引用件数が期待されます。短い速報ばかりで発表するのではなく, 研究背景, 実験方法, 合成方法までも詳述したフルペーパーを是非 *Bull. Chem. Soc. Jpn.* へ投稿していただくようお願いいたします。

学会が発行している日本発の「欧文誌」については, 様々の議論が行われています。化学の世界において重要な一極を占める国際誌として, また, 我が国のオリジナル研究の発信基地として *Bull. Chem. Soc. Jpn.* を積極的に維持し, さらなる向上をめざすため, 皆様のご理解と, ご意見のご提案, また, 積極的な投稿をお願いいたします。

英訳版は900ページをご参照下さい。English version, see pp 900.

© 2011 The Chemical Society of Japan